

「高規格堤防と一体化したまちづくり」の区画整理事業を一旦止める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第46号

受理年月日 平成23年9月20日

付託年月日 平成23年9月27日

陳情者
.

陳情原文 延々と続いていた江戸川区からの「まちづくりニュース」18班用が、とうとう92号まで発行されました。住民への「懇談会」と称される実は「説明会」が16回に及びました。事業決定の縦覧には「スーパー堤防」の名前は伏せられ、弱い地盤を強くして区画整理をする「盛土」という言葉で事業決定までされてしまいました。しかし、その実状は、18班は堅固な地盤であり地盤整備をしなくても液状化しないという結果が測量で得られました。最初の区側からの「液状化しやすい地盤を強くする」という言い訳はここで明らかに崩れたのです。後に、「窪地である土地を棲み易い土地にする」という言い訳が、「盛土」という言葉に摩り替えられました。私達の住んでいる18班は、決して窪地ではありません。JRと蔵前橋通り・千葉街道に囲まれただけの平地です。

2008年の10月、区の職員と住民との話し合いがありました。その中で、公式発言としてある区の職員が「ここはJRと蔵前橋通り・千葉街道に囲まれたすり鉢状の低い窪地で、雨が降った後、ここを通ると『かび臭い』んですよね。という事は『家の中は湿地状態』じゃないかと、だから、『土地を高くしてやって』」その状況から解放してあげる、という、住民にとっては、差別意識で話をしている話し合いがありました。私達は、雨が降っても家の中は湿地帯にはなりません。周囲の水はけはよく、かび臭くもなりません。江戸川区は、この時点で、この北小岩一丁目東部地区(18班)を差別して考えていたのです。私はこのような「湿地帯の家」に棲んだ経験はありませんし、「かび臭い」地元に棲んだ覚えもありません。

以来、「懇談会」と称される説明会は、北小岩の他の地域の人間を入れない閉鎖的なものになり、高圧的な態度で職員が高齢者の家にわざわざ呼び鈴を鳴らし、「まちづくりニュース」を渡すという、一種、脅迫じみた行動が目立つようになりました。

そもそも、この計画は、住民全員をこの地区から追い出し、3年の仮住居を強い、土地の「土盛り」という改悪(と私は考えます)工事をして、新築の住居に再度転入するという、二度の引越すと、必要のない土盛りの土地に棲まわせるという計画です。確かに、古い土地ですので、路地もあり、狭い道もあります。区側の理由としては、「緊急車両も入らない」というものがありました。私の母は腎臓結石で救急車を要請し、難なく病院に搬送された経験もあります。(祖父や祖母の救急車での搬送も、何度も経験しています)また、消防署は、「消火栓も完備されているし、何の問題も無い」との言質も取れたと聞きました。つまり、このままの状態でも、住民が不満を持たない限り、区画整理の必要は無いということ

(裏面に続く)

です。

ところが、この度の「スーパー堤防と一体化したまちづくり」です。それに賛成している住民が殆どだと区は説明しますが、その論拠は、某町会長が、「長年の夢だった（自宅の改装）」だというだけで、私の父母達がアンケートを二回取った結果は、最初のアンケートに答えてくれた28件中90%が反対、二度目のアンケートにては62件の回答中98%が「計画を白紙に戻して欲しい」という結果でした。88件の中、62件の答えです。その中で、答えられなかった方が1件、非常に悲しい身につまされる切実なメモが入っていました。

「年のせいか、ふだんからいろいろ悩み事が多い。その上に常に『スーパー堤防』の事が頭の隅にあり、毎日憂鬱な日を送っています。病院に行けば血圧は上がり、此の頃は時々眩暈がして、いよいよこれは死ぬ用意をしなければならないのかと思いつつ、永い年月の間にたまった荷物を眺めながら、青息吐息の毎日です。これで立ち退けと言われたら、どうしたら良いのか分かりません。安らかに人生を終わりたいと願っていたのですが、それも叶わぬことなのではないでしょうか」。

このご夫婦は現在90歳代と聞きます。私の曾祖父の年代に当たります。こんな事を住民に課するのが行政のやり方なのではないでしょうか。私はこの事業には非常に疑問を抱きます。

現在、昔あったような「作りすぎたおかずをやり取りする」「田舎から送ってきた野菜等を分けたりする」という、当たり前のコミュニティーは、完全に破壊されてしまいました。私の友人も引越してしまいました。それどころか、一体誰が賛成派で誰が反対派なのかを勘ぐるあまり、誰に挨拶をしたらよいのか挨拶もそこそこにするという日常があります。この状態で、区側の憶測通りの「まちづくり」が果たせたとしても、現在ですらそんな状態の土地にはコミュニティを形成する素地は全く無い状況になると思われます。

また、この江戸川沿川には、古くからの寺社仏閣があり、カスリーン台風でも水が上がった事が無いと、亡くなった祖父からよく聞かされてきました。そんな堅固な堤防に、何故巨額な国税を投入し、住民を不安にさせる「高規格堤防（スーパー堤防）と一体化した街」を作るのか、私には理解出来ません。そんな巨額な国税があるなら、現状、至急困っている福島復興、また、私の大叔父が困難にあっている和歌山の水害に使うのが本当の使い道ではないでしょうか。

400年先に出来るか否かの不安定、かつ住民からの合意も得ていない不必要な「スーパー堤防と一体化したまちづくり」よりも、今、大至急必要な国の災害へ、この資金は行くべきであり、また、それを望む多くの人々を援助すべきであると考えます。若輩ではありますが、私ですら考え付くこの様な簡単な問題を何故、区が考え付かないのかが、不思議でなりません。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

記

北小岩一丁目東部地区での「区画整理事業」を一旦止めることを求めます。